第３回　野外体験保育有効性調査・検討委員会事項書

日　時　　平成２８年１月２９日（金）午前１０時～正午
場　所　　三重県吉田山会館　３０２会議室

１　野外体験保育有効性調査の結果について

２　野外体験保育の普及方策について

３　その他

野外体験保育有効性調査・検討委員会　委員一覧（五十音順・敬称略）

所属	委員名	備考
特定非営利活動法人 大杉谷自然学校	池田　直代	
大阪大谷大学　教育学部　教授	井上　美智子	
社会福祉法人一二三会 いずみ保育園　園長	宇佐美　直樹	三重県保育協議会 副会長
岐阜聖徳学園大学短期大学部 幼児教育学科　専任講師	木戸　啓絵	
学校法人ひかり学園 白子ひかり幼稚園　理事長	服部　高明	一般社団法人 三重県私立幼稚園協会 副会長

計5名

第２回野外体験保育有効性調査・検討委員会　議事概要

１　日　時　　平成２７年１０月２３日（火）午後２時～４時
２　場　所　　三重県四日市庁舎　２階　２２会議室
３　参加委員　池田委員、井上委員、宇佐美委員、木戸委員、服部委員（50 音順）
４　内　容
（１）野外体験保育の普及方策（案）について

①事務局から

野外体験保育の普及方策（案）の考え方について説明

②委員からの主な意見

・幼稚園協会の新人研修にこうしたメニューを入れてはどうか。多かれ少なかれ、自然体験の機会はどこの園でもある。

・保護者と子どもを対象とした自然体験を土日に実施するのはどうか。親も巻き込んで啓発すると効果が高い。

・交流会はよい取組であると思うが、この交流会について、結果はどのように記録し、効果が蓄積されていくのか。
→（事務局）事業実施後の普及が重要であり、記録をＷｅｂ等で発信していきたい。

・親向けの体験、子ども向けの体験に分けるとよいのではないか。最後に親子・保育者が一緒になった啓発を行うのが望ましい。

・自分のところでも親子の自然体験機会を提供しているが、就学児を含め、子どもに自然を体験させる親のニーズは高い。昨今、イベント的な体験は多いが、その理念を伝えるのは難しいと感じている。

・初年度としては、事務局の提示した案がちょうど良い程度かと思う。冊子の啓発は、立派なものを施設に配るより、簡易なものを保護者に配る方がよい。研究会については、保育者が主体的に動けるしくみを作らないと、後につながっていかない。保育者が役割を持ってやることが大切。

・アドバイザー派遣について、モデル園に派遣する人材は、「森の風ようちえん」だけでなく、県内外の専門家にも来てもらうとよい。また、今年度末にとりまとめる報告書には、県として野外体験保育の推進を図る理由やビジョンなどをしっかりと記入することが必要。

（２）その他（森の風ようちえんの現地視察について）

○視察に参加された委員からの主な発言

・「森の風ようちえん」では、定期的に野外体験保育に関する研究会を行っている。小学校では、テーマを設けて学校の枠を超えた教員同士の研究会などがあるが、保育施設でも、こうした場があるとよいと感じた。

・「森の風ようちえん」は、地域のコミュニティづくりに波及していると感じた。また、同園の嘉成園長は、「子どもには力がある」と仰っていた。実は、保育者がこれに気づいていないと、子どもの力を引き出せない。保育者向けにこうした支援が必要だと感じた。

資料１

１　野外体験保育有効性調査の結果について

（１）実施した調査の内容　※別添「概要」ｐ１

①保育施設向け実態調査（県内の全認可幼稚園、保育所等　６３６園を対象に調査票を発送。５４６園から回答（回収率８５．１％））

②野外体験保育に積極的に取り組む施設への現地調査（県内３施設を選定）

③保護者向け意識調査　（上記２の施設の保護者５０名）

（２）　調査結果から見えたこと（主なもの）

①野外体験保育の有効性に関するもの

ア）野外体験保育の頻度と、子どもたちの様子との関係について　逆転

※別添「概要」ｐ９

野外体験保育の実施頻度が高い保育施設ほど、多くの園児に「自分からすすんで何でもやる」「さまざまな情報から必要なものが選べる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」などの様子が見られる施設の割合が高い。

②保育施設に子どもを通わせる保護者の思いについて　※別添「概要」ｐ２２

野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者は、今の子育てと自分の生き方に肯定的な感情を持っている。

（「子どもの成長している姿を見るのが嬉しい」「子育てを通じて、自分も成長していきたい」などの項目に、そう思うと答えた人の割合が９割以上）

③野外体験保育に関するニーズや課題に関するもの

ア）野外体験保育のニーズについて　※別添「概要」ｐ７，ｐ１６

県内の４８％の保育施設がもっと野外体験保育に取り組む必要があると感じている。特に、野外体験保育の実施頻度が低い施設ほど、多くの施設がその必要性を感じている。※実施頻度が最も低いグループに属する施設を除く

イ）野外体験保育の課題について　※別添「概要」ｐ１６、ｐ１８

野外体験保育を進める上での課題は「安全性の確保が困難」が最も高く、次いで「職員の負担が大きい」「体験を行うフィールドが少ない」「職員にスキルがない」と続く。特に中心市街地や郊外の住宅地では「体験を行うフィールドが少ない」を課題にあげる施設が多い。

また、野外体験保育に積極的に取り組む施設では、運営にかかる負担や保護者の理解が課題としてあげられている。

ウ）保護者・地域との関わりと、野外体験保育の頻度の関係について

※別添「概要」ｐ１５

野外体験保育の実施頻度が高い施設ほど、地域の人々の保育への参加回数が多い。（地域の人々が参加する行事等の回数が多い施設の割合が高い。）

平成２８年１月２９日
三重県健康福祉部子ども・家庭局
少子化対策課

野外体験保育有効性調査結果の概要

第１章　調査の概要について

１　目的

幼児期における自然体験の効果が子どもの育ちに有効であると言われている中、県内の保育所、幼稚園や保護者等に対して野外体験保育に関する実態調査、現地調査や意向調査等を行い、野外体験保育の有効性の検証を行うとともに、県内の野外体験保育の実態を踏まえてこうした保育の普及をはかる。

２　言葉の定義

２－１「野外体験保育」とは

野外を中心に、地域の自然を豊かに活用する体験活動を積極的に取り入れた保育や幼児教育

２－２　その他（この報告書で使用する名称）

２－１－１「保育施設」とは

保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園（以下「認定こども園」）の総称

２－１－２「保育者」とは

保育士、幼稚園教諭の総称

３　調査の内容

３－１　保育施設向け実態調査

（１）調査対象

県内の全認可保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）６３６園
（発送数）

（２）調査期間

１０月５日～１０月２８日締切（アンケート調査）

（３）調査項目

①施設の概要
②野外体験保育の内容と実施頻度
③子どもたちの様子
④園外での野外体験ができる自然環境（フィールド）の有無について
⑤保育における地域・保護者とのつながり
⑥野外体験保育に対するニーズ
⑦野外体験保育に対する課題

３－２　野外体験保育に積極的に取り組む施設への現地調査（職員へのヒアリング調査）

（１）調査対象

・【北勢地域】森の風ようちえん（菰野町）
・【中勢地域】社会福祉法人鈴の木会　片田保育園（津市）
・【伊勢地域】伊勢市立　明野幼稚園（伊勢市）

（２）調査日時

平成２７年１０月２３日（金）　１１：００～　森の風ようちえん
平成２７年１２月１５日（火）　１５：００～　明野幼稚園
平成２７年１２月１７日（木）　１３：００～　片田保育園

（３）調査項目

①保育・教育のポリシー
②施設の概要
③野外体験保育の内容と実施頻度
④保育における地域・保護者とのつながり
⑤野外体験保育に対する課題
⑥安全対策について
⑦人材育成について

３－３　保護者向け意識調査

（１）調査対象

野外体験保育に積極的に取り組む施設（上記調査実施園）に子どもを通わせる保護者のうち、５歳児クラス（年長組）の子どもを持つ保護者

（２）調査日時（アンケート調査）

・森の風ようちえん　平成２７年１２月８日～１２月１９日　１４通
・明野幼稚園　平成２７年１２月８日～１２月１５日　２０通
・片田保育園　平成２７年１２月８日～１２月２１日　１６通

（３）調査項目

①基本情報
②子どもの変化
③大人の変化

第２章　調査結果の概要

１　保育施設向け実態調査

１－１　調査票回収結果

５４６園（配布数６３６園：回収率８５．１％）

１－２　調査結果

１－２－１　施設の概要

①子どもの数

４９，５５６人　うち５歳児（調査対象）12,441 人（全体の 25.5%）

②職員数

９，５０２名　（一施設あたり１７．４人）

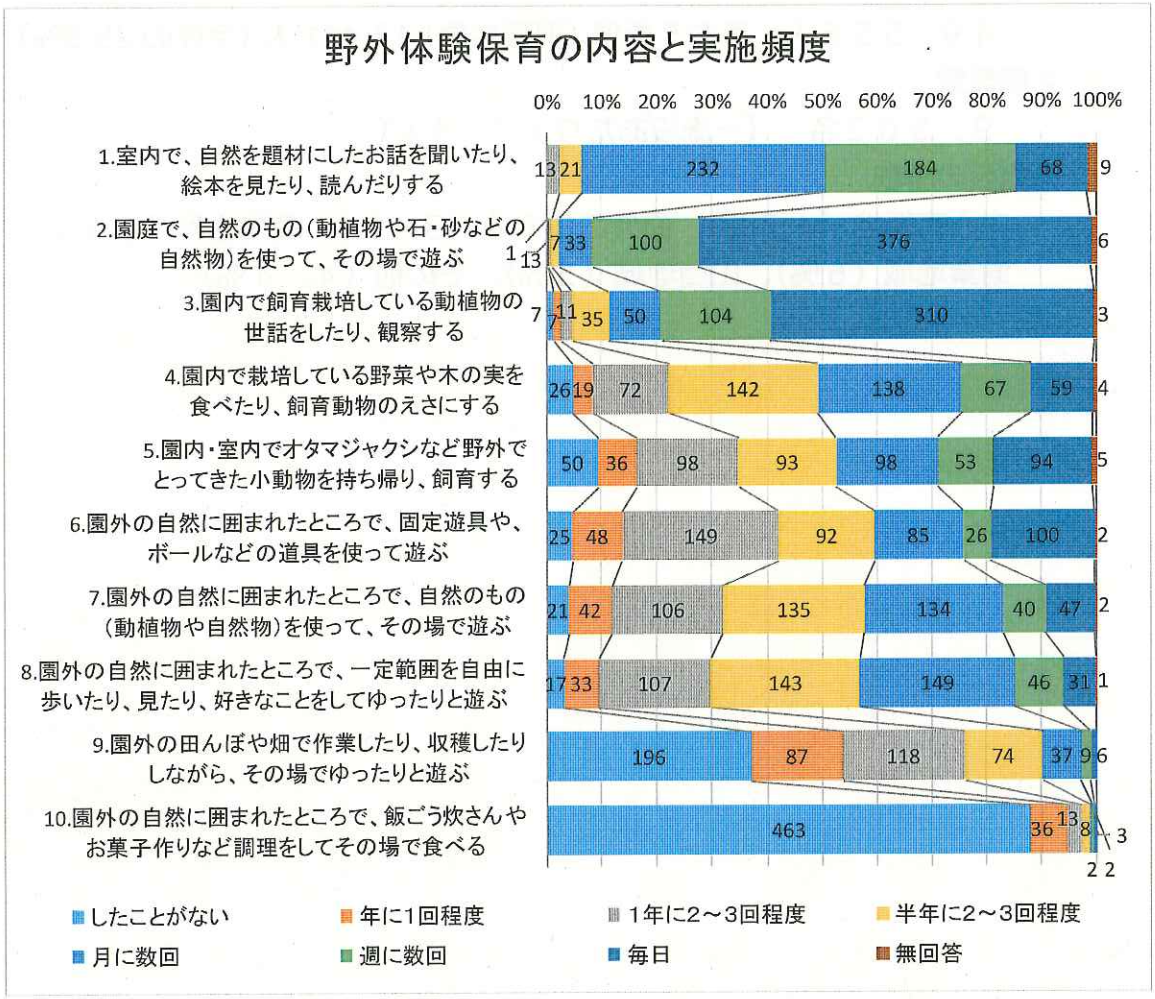
③施設の所在

中心市街地（１７％）、郊外の住宅地（３４％）、農業地帯（３４％）、漁業地域（６％）、山間地域（５％）、その他（４．４％）

１－２－２　野外体験保育の内容と実施頻度

○園外での自然体験活動を実施している施設は多くない。

月に数回以上の高頻度（《毎日》《週に数回》《月に数回》の合計）で実施されている割合をみると、園内での活動のうち、項目１～３は９割程度以上、項目４・５は約半数程度となっています。園外での活動については、項目６～８は４割程度、項目９は９．８％、項目１０は高頻度で実施している施設はほとんどありません。

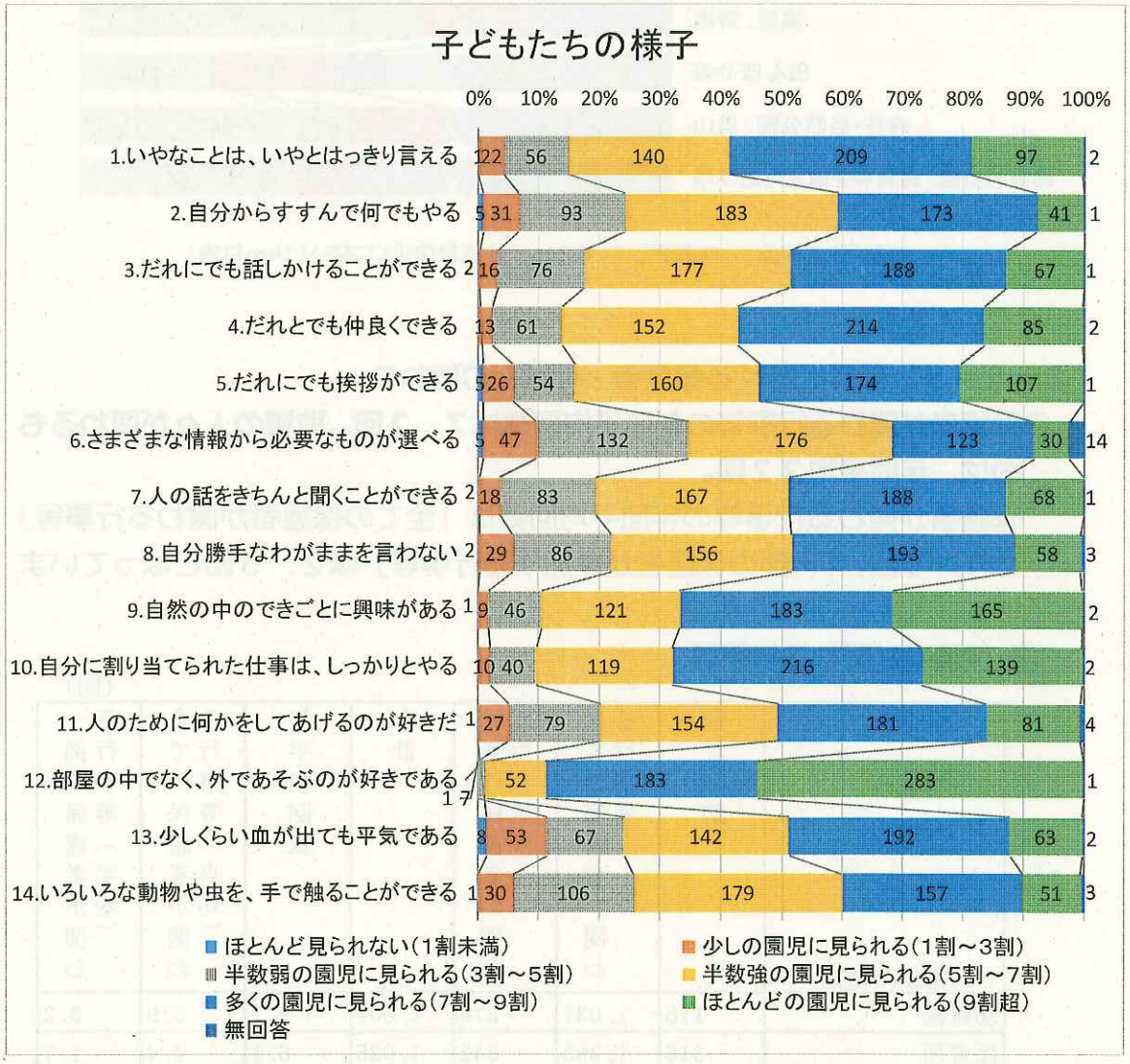


１－２－３　子どもたちの様子

○９割の施設で、多くの園児に「部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである」という様子がみられる一方、「さまざまな情報から必要なものを選べる」という様子が多くの園児に見られる施設は約３割程度となっている。

園に通う子どもたちの様子を見た場合、多くの園児にみられる（《多くの園児にみられる》《ほとんどの園児にみられる》の合計）と回答があった項目は、「12.部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである」が８８．４％と高い一方、「6.さまざまな情報から必要なものが選べる」は全体の２９％、「2.自分から進んで何でもやる」及び「14.いろいろな動物や虫を、手で触ることができる」はそれぞれ４０．６％、３９．５％と低くなっています。

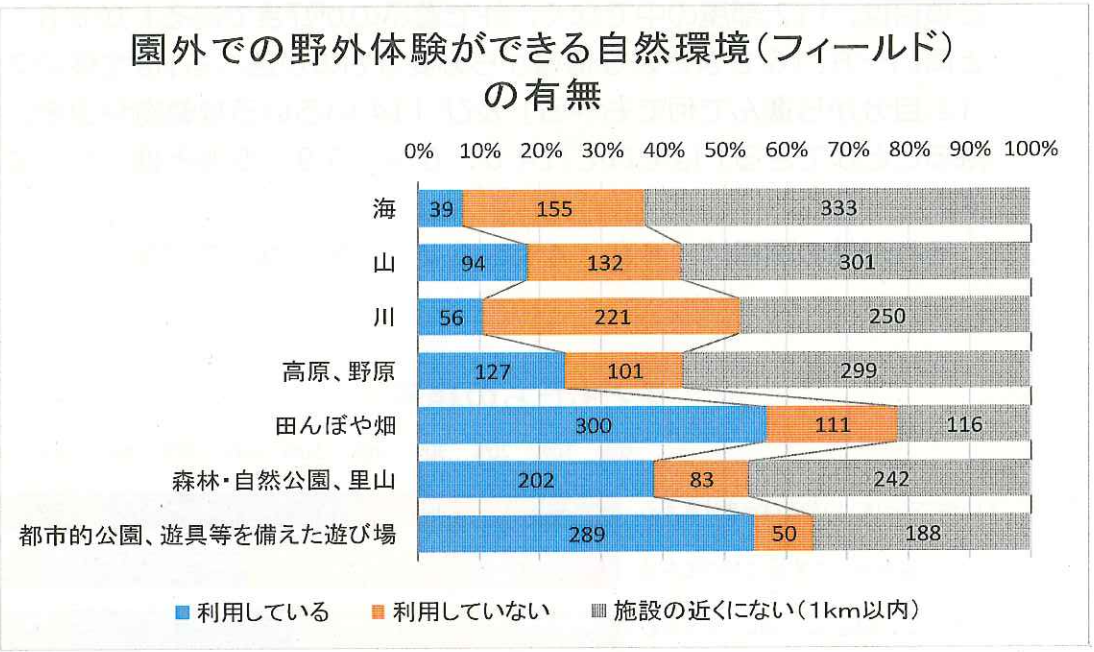
それ以外の項目は、４８．４％～６７．４％となっています。



１－２－４　園外での野外体験ができる自然環境（フィールドの有無）

○近隣に「田んぼや畑」がある施設は７割強で、利用率も高い。

施設の近隣にある自然環境（フィールド）は、「田んぼや畑」「都市的公園、遊具等を備えた遊び場」がそれぞれ７割強、６割強と多く、利用率も高くなっています。一方、４割から５割程度の施設には、近隣に「海」、「山」、「川」があると答えていますが、利用率は低くなっています。



１－２－５　保育における保護者・地域との関わり

○保護者が関わる行事等の年間平均回数は７．２回。地域の人々が関わるものは、年間平均２２回。

保護者が関わる行事等の年間平均回数は「全ての保護者が関わる行事等」は４．９回、「一部の保護者が参加する行事等」は２．３回となっています。

表 保護者が関わる行事等

（回）

施設の種類	合計（園）	全ての保護者が関わる行事等	一部の保護者が関わる行事等	合計	年平均回数	全ての保護者が関わる行事等（平均）	一部の保護者が関わる行事等（平均）
幼稚園	176	1,031	570	1,601	9.1	5.9	3.2
保育所	316	1,383	542	1,925	6.1	4.4	1.7
認定こども園	8	34	7	41	5.1	4.3	0.9
無回答	27	120	91	211	7.8	4.4	3.4
合計	527	2,568	1,210	3,778	7.2	4.9	2.3

一方、地域の方々が関わる行事等の年間平均回数は、「園の開放による交流」が１３．５回と最も多く、次いで「絵本の読み聞かせ、昔の遊びの指導」が６．２回となっています。

表　地域の人が関わる行事等

（回）

施設の種類	合計（園）	園の開放による交流	農業体験機会等の提供	園外活動の見守り	絵本の読み聞かせ、昔の遊びの指導	合計	年平均回数	園の開放による交流（平均）	農業体験機会等の提供（平均）	園外活動の見守り（平均）	絵本の読み聞かせ、昔の遊びの指導（平均）
幼稚園	176	1,797	367	100	763	3,027	17.2	10.2	2.1	0.6	4.3
保育所	316	5,025	427	294	2,416	8,162	25.8	15.9	1.4	0.9	7.7
認定こども園	8	28	12	3	36	79	9.9	3.5	1.5	0.4	4.5
無回答	27	287	41	11	61	400	14.8	10.6	1.5	0.4	2.3
合計	527	7,137	847	408	3,276	11,668	22.1	13.5	1.6	0.8	6.2

１－２－６　野外体験保育に対するニーズ

○今後の野外体験保育への取り組みは「もっと取り組みたい」と「現状の取り組みでよい」がほぼ同数。

野外体験保育に対する今後の取り組みに対する意向は、「もっと取り組みたい」と「現状の取り組みでよい」と答えた施設がそれぞれ４８％、４４％とほぼ同程度で二分しています。一方、「取り組む必要はない」とする施設はほとんどありませんでした。

（％）

施設の種類	施設数	もっと取り組みたい	現状の取組でよい	取り組む必要はない	無回答
幼稚園	176	52.3	40.3	0.6	6.8
保育所	316	45.6	46.5	1.0	7.0
認定こども園	8	50.0	50.0	0.0	0.0
無回答	27	48.2	37.0	3.7	11.1
合計	527	48.0	44.0	1.0	7.0

１－３　調査項目の関係について

１－３－１　「施設の所在地（周辺環境）」と「野外体験保育の頻度」の関係

○農村部の保育施設では、野外体験保育の実施頻度が比較的高い。

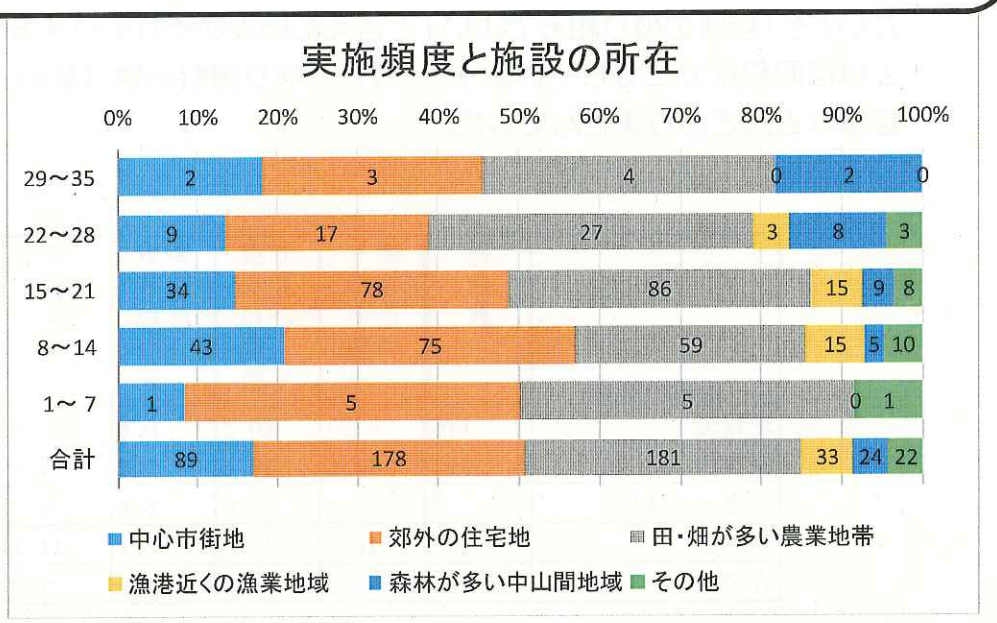
「施設の所在地（周辺環境）」と「野外体験保育の実施頻度」の関係をみると、実施頻度が高いグループ（実施頻度が１５点以上）を見ると、中心市街地及び郊外の住宅地にある施設よりも、農村部（農業地帯、漁業地域、中山間地域）にある施設の割合が高くなっています。

農村部では、施設の近隣に利用可能な「田んぼや畑」「森林・自然公園・里山」などのフィールドの存在が影響していると考えられます。

【野外体験保育の実施頻度の点数化】

１－２－２で見た「野外体験保育の内容と実施頻度の調査」における設問内容（１０項目）のうち、園外での自然体験の実施頻度を聞いたもの（設問６～設問１０の５項目）について、選択肢の《したことがない》・《年に１回程度》・《１年に２～３回程度》・《半年に２～３回程度》・《月に数回》・《週に数回》・《毎日》の７段階の評価に、１～７の点数を与え、５項目の合計により点数化した。点数が高いほど屋外での自然体験を通じた保育が高頻度となる。

１－３　調査項目の関係において、「野外体験保育の頻度」という場合には、上記により点数化した尺度を指すこととする。

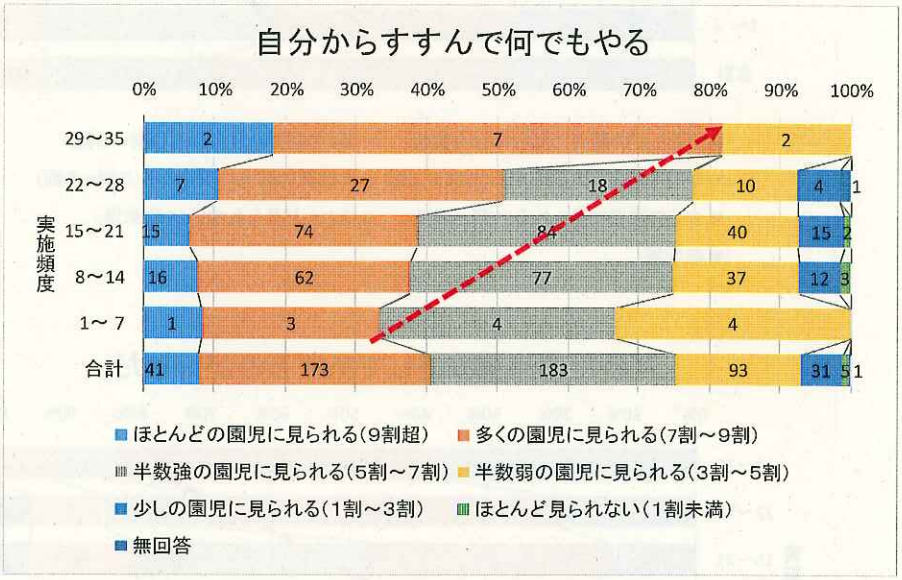


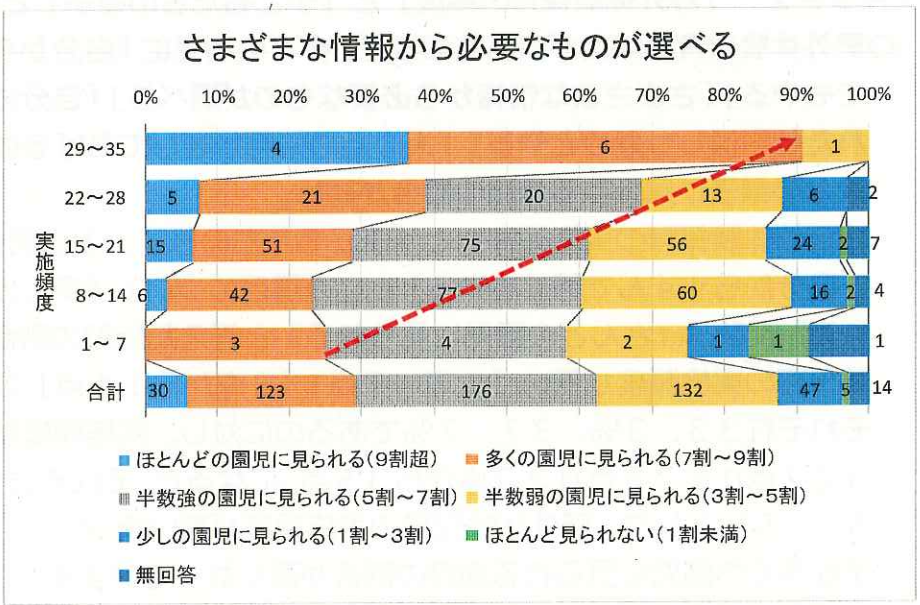
１－３－２　「野外体験保育の頻度」と「子どもたちの様子」との関係

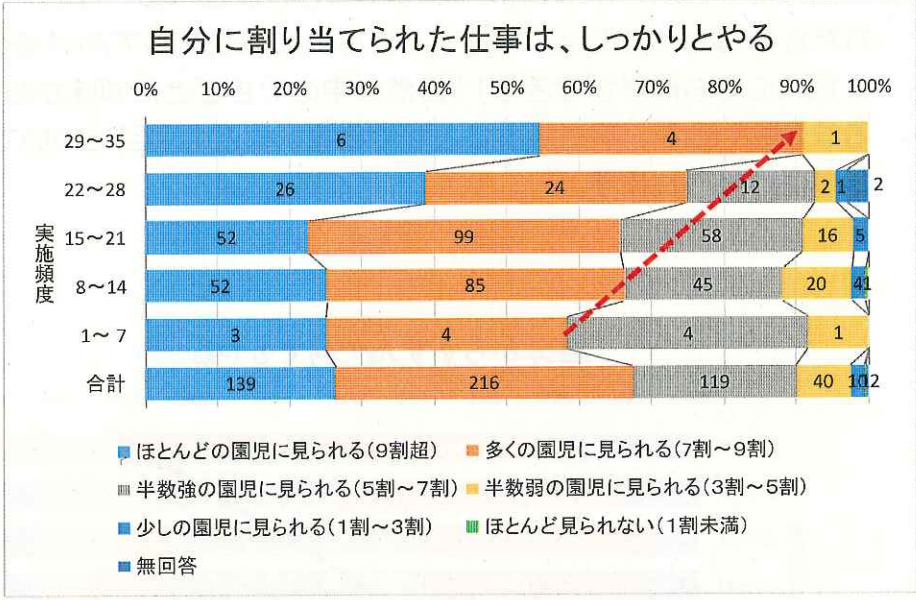
○野外体験保育の頻度が高い施設ほど、多くの園児に「自分からすすんで何でもやる」「さまざまな情報から必要なものが選べる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」などの様子が見られる施設の割合が高い。

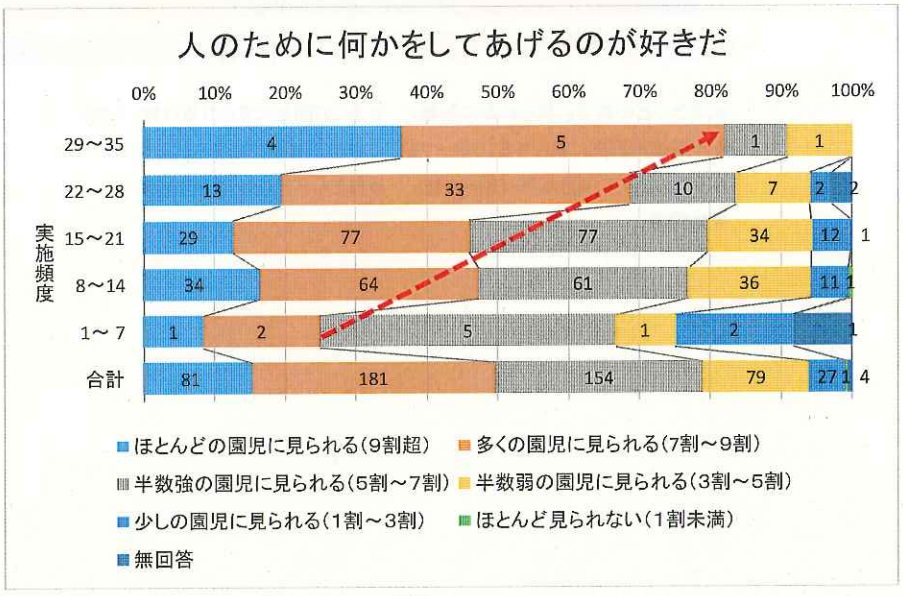
「野外体験保育の実施頻度」と「子どもたちの様子」との関係を見ると、「自分からすすんで何でもやる」という項目について《多くの園児に見られる》及び《ほとんどの園児に見られる》と答えた施設の割合は、野外体験保育の実施頻度が低い「１点～７点」「８点から１４点」の施設では、それぞれ３３．３％、３７．７％であるのに対し、実施頻度が比較的高い「２２点から２８点」「２９点から３５点」になると、それぞれ５０．８％、８１．８％となり、野外体験保育の実施頻度が高い施設ほど、こうした様子が多くの園児に見られる施設の割合が高くなっています。

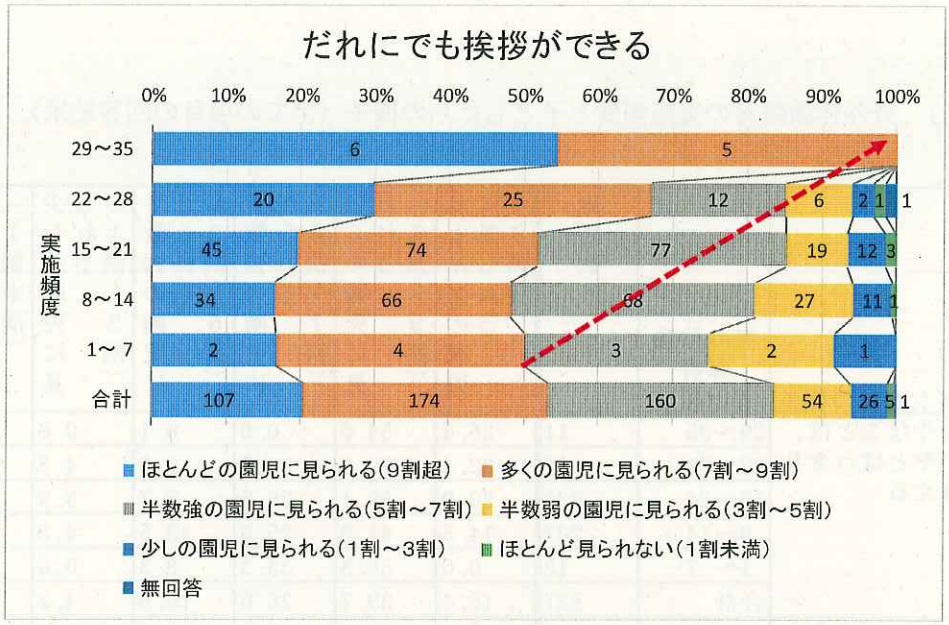
同様に「さまざまな情報から必要なものが選べる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」「だれにでも挨拶ができる」「自然の中のできごとに興味がある」「いろいろな動物や虫を、手で触ることができる」などの項目についても、こうした関係が見られます。

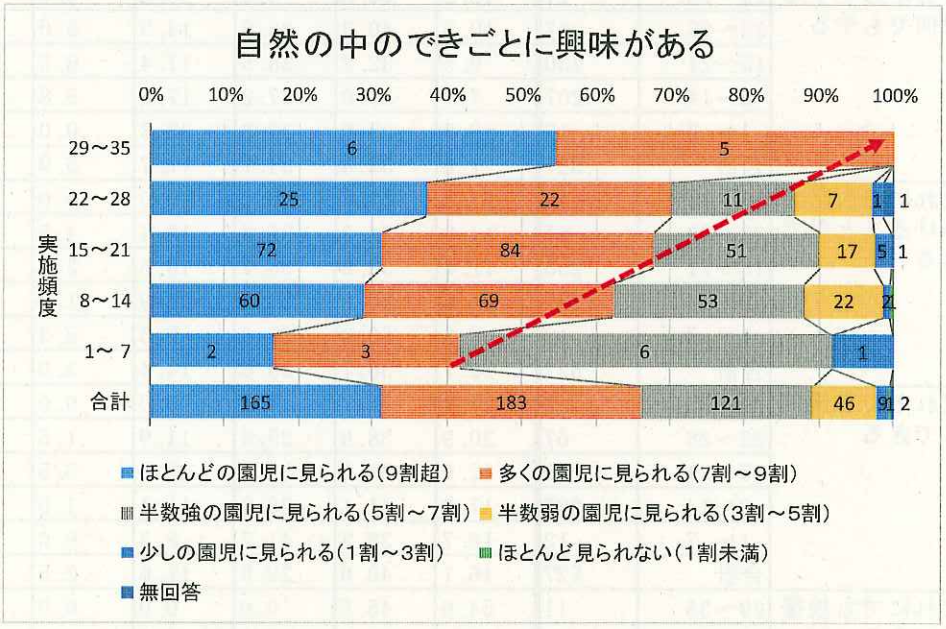


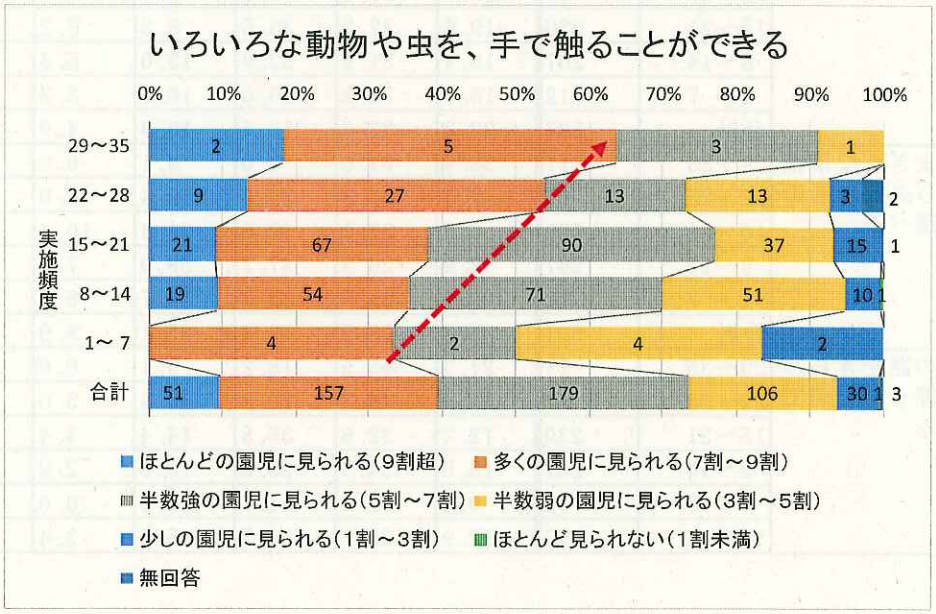

さまざまな情報から必要なものが選べる
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
実施頻度
29～35
22～28
15～21
8～14
1～7
合計
4 6 1
5 21 20 13 6 2
15 51 75 56 24 2 7
6 42 77 60 16 2 4
3 4 2 1 1 1
30 123 176 132 47 5 14
ほとんどの園児に見られる(9割超)
多くの園児に見られる(7割～9割)
半数強の園児に見られる(5割～7割)
半数弱の園児に見られる(3割～5割)
少しの園児に見られる(1割～3割)
ほとんど見られない(1割未満)
無回答


自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
実施頻度
29～35
22～28
15～21
8～14
1～7
合計
6 4 1
26 24 12 2 1 2
52 99 58 16 5
52 85 45 20 4 1
3 4 4 1
139 216 119 40 1 2
ほとんどの園児に見られる(9割超)
多くの園児に見られる(7割～9割)
半数強の園児に見られる(5割～7割)
半数弱の園児に見られる(3割～5割)
少しの園児に見られる(1割～3割)
ほとんど見られない(1割未満)
無回答


人のために何かをしてあげるのが好きだ
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
実施頻度
29～35
22～28
15～21
8～14
1～7
合計
4 5 1 1
13 33 10 7 2 2
29 77 77 34 12 1
34 64 61 36 11 1
1 2 5 1 2 1
81 181 154 79 27 1 4
ほとんどの園児に見られる(9割超)
多くの園児に見られる(7割～9割)
半数強の園児に見られる(5割～7割)
半数弱の園児に見られる(3割～5割)
少しの園児に見られる(1割～3割)
ほとんど見られない(1割未満)
無回答


だれにでも挨拶ができる
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
実施頻度
29～35 6 5
22～28 20 25 12 6 2 1 1
15～21 45 74 77 19 12 3
8～14 34 66 68 27 11 1
1～7 2 4 3 2 1
合計 107 174 160 54 26 5 1
ほとんどの園児に見られる(9割超)
多くの園児に見られる(7割～9割)
半数強の園児に見られる(5割～7割)
半数弱の園児に見られる(3割～5割)
少しの園児に見られる(1割～3割)
ほとんど見られない(1割未満)
無回答


自然の中のできごとに興味がある
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
実施頻度
29～35 6 5
22～28 25 22 11 7 1 1
15～21 72 84 51 17 5 1
8～14 60 69 53 22 2
1～7 2 3 6 1
合計 165 183 121 46 9 2
ほとんどの園児に見られる(9割超)
多くの園児に見られる(7割～9割)
半数強の園児に見られる(5割～7割)
半数弱の園児に見られる(3割～5割)
少しの園児に見られる(1割～3割)
ほとんど見られない(1割未満)
無回答


いろいろな動物や虫を、手で触ることができる
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
実施頻度
29～35 2 5 3 1
22～28 9 27 13 13 3 2
15～21 21 67 90 37 15 1
8～14 19 54 71 51 10 1
1～7 4 2 4 2
合計 51 157 179 106 30 1 3
ほとんどの園児に見られる(9割超)
多くの園児に見られる(7割～9割)
半数強の園児に見られる(5割～7割)
半数弱の園児に見られる(3割～5割)
少しの園児に見られる(1割～3割)
ほとんど見られない(1割未満)
無回答

参考）　野外体験保育の実施頻度と子どもたちの様子（全ての項目の回答結果）

（%）

子どもたちの様子		野外体験保育実施頻度	施設数	ほとんどの園児に見られる（9割超）	多くの園児に見られる（7割～9割）	半数強の園児に見られる（5割～7割）	半数弱の園児に見られる（3割～5割）	少しの園児に見られる（1割～3割）	ほとんど見られない（1割未満）	無回答
1	いやなことは、いやとはっきり言える	29～35	11	36.4	54.6	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	22.4	29.9	32.8	9.0	4.5	0.0	1.5
		15～21	230	20.9	39.1	26.5	8.7	3.9	0.4	0.4
		8～14	207	14.5	41.6	25.6	13.5	4.8	0.0	0.0
		1～ 7	12	0.0	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0
		合計	527	18.4	39.7	26.6	10.6	4.2	0.2	0.4
2	自分からすすんで何でもやる	29～35	11	18.2	63.6	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	10.5	40.3	26.9	14.9	6.0	0.0	1.5
		15～21	230	6.5	32.2	36.5	17.4	6.5	0.9	0.0
		8～14	207	7.7	30.0	37.2	17.9	5.8	1.5	0.0
		1～ 7	12	8.3	25.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
		合計	527	7.8	32.8	34.7	17.7	5.9	1.0	0.2
3	だれにでも話しかけることができる	29～35	11	27.3	63.6	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	14.9	34.3	31.3	13.4	4.5	0.0	1.5
		15～21	230	12.6	33.9	35.7	13.5	3.5	0.9	0.0
		8～14	207	11.6	35.8	33.8	16.9	1.9	0.0	0.0
		1～ 7	12	8.3	50.0	25.0	8.3	8.3	0.0	0.0
		合計	527	12.7	35.7	33.6	14.4	3.0	0.4	0.2
4	だれとでも仲良くできる	29～35	11	27.3	72.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	20.9	38.8	25.4	11.9	1.5	0.0	1.5
		15～21	230	12.6	39.6	31.3	12.6	3.5	0.0	0.4
		8～14	207	17.9	41.1	28.0	11.1	1.9	0.0	0.0
		1～ 7	12	16.7	33.3	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0
		合計	527	16.1	40.6	28.8	11.6	2.5	0.0	0.4
5	だれにでも挨拶ができる	29～35	11	54.6	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	29.9	37.3	17.9	9.0	3.0	1.5	1.5
		15～21	230	19.6	32.2	33.5	8.3	5.2	1.3	0.0
		8～14	207	16.4	31.9	32.9	13.0	5.3	0.5	0.0
		1～ 7	12	16.7	33.3	25.0	16.7	8.3	0.0	0.0
		合計	527	20.3	33.0	30.4	10.3	4.9	1.0	0.2
6	さまざまな情報から必要なものが選べる	29～35	11	36.4	54.6	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	7.5	31.3	29.9	19.4	9.0	0.0	3.0
		15～21	230	6.5	22.2	32.6	24.4	10.4	0.9	3.0
		8～14	207	2.9	20.3	37.2	29.0	7.7	1.0	1.9
		1～ 7	12	0.0	25.0	33.3	16.7	8.3	8.3	8.3
		合計	527	5.7	23.3	33.4	25.1	8.9	1.0	2.7
7	人の話をきちんと聞くことができる	29～35	11	27.3	45.5	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	13.4	46.3	22.4	13.4	3.0	0.0	1.5
		15～21	230	12.2	32.6	36.5	14.4	4.4	0.0	0.0
		8～14	207	13.5	34.3	29.5	18.8	2.9	1.0	0.0
		1～ 7	12	0.0	50.0	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0
		合計	527	12.9	35.7	31.7	15.8	3.4	0.4	0.2

(%)

	子どもたちの様子	野外体験保育実施頻度	施設数	ほとんどの園児に見られる（9割超）	多くの園児に見られる（7割～9割）	半数強の園児に見られる（5割～7割）	半数弱の園児に見られる（3割～5割）	少しの園児に見られる（1割～3割）	ほとんど見られない（1割未満）	無回答
8	自分勝手なわがままを言わない	29～35	11	27.3	36.4	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1
		22～28	67	17.9	31.3	26.9	16.4	4.5	1.5	1.5
		15～21	230	8.3	39.1	31.3	16.5	4.4	0.0	0.4
		8～14	207	11.6	34.3	29.0	16.9	7.7	0.5	0.0
		1～ 7	12	0.0	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0
		合計	527	11.0	36.6	29.6	16.3	5.5	0.4	0.6
9	自然の中のできごとに興味がある	29～35	11	54.6	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	37.3	32.8	16.4	10.5	1.5	0.0	1.5
		15～21	230	31.3	36.5	22.2	7.4	2.2	0.0	0.4
		8～14	207	29.0	33.3	25.6	10.6	1.0	0.5	0.0
		1～ 7	12	16.7	25.0	50.0	0.0	8.3	0.0	0.0
		合計	527	31.3	34.7	23.0	8.7	1.7	0.2	0.4
10	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	29～35	11	54.6	36.4	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	38.8	35.8	17.9	3.0	1.5	0.0	3.0
		15～21	230	22.6	43.0	25.2	7.0	2.2	0.0	0.0
		8～14	207	25.1	41.1	21.7	9.7	1.9	0.5	0.0
		1～ 7	12	25.0	33.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0
		合計	527	26.4	41.0	22.6	7.6	1.9	0.2	0.4
11	人のために何かをしてあげるのが好きだ	29～35	11	36.4	45.5	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	19.4	49.3	14.9	10.5	3.0	0.0	3.0
		15～21	230	12.6	33.5	33.5	14.8	5.2	0.0	0.4
		8～14	207	16.4	30.9	29.5	17.4	5.3	0.5	0.0
		1～ 7	12	8.3	16.7	41.7	8.3	16.7	0.0	8.3
		合計	527	15.4	34.4	29.2	15.0	5.1	0.2	0.8
12	部屋の中でなく、外であそぶのが好きである	29～35	11	63.6	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	56.7	28.4	11.9	1.5	0.0	0.0	1.5
		15～21	230	50.9	37.0	10.4	1.3	0.4	0.0	0.0
		8～14	207	56.0	33.3	9.2	1.5	0.0	0.0	0.0
		1～ 7	12	41.7	50.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
		合計	527	53.7	34.7	9.9	1.3	0.2	0.0	0.2
13	少しくらい血が出ても平気である	29～35	11	27.3	36.4	27.3	0.0	9.1	0.0	0.0
		22～28	68	17.7	35.3	22.1	16.2	5.9	0.0	2.9
		15～21	229	9.6	34.1	32.8	10.9	10.9	1.8	0.0
		8～14	207	12.1	39.1	22.7	14.5	10.1	1.5	0.0
		1～ 7	12	8.3	41.7	16.7	8.3	16.7	8.3	0.0
		合計	527	12.0	36.4	26.9	12.7	10.1	1.5	0.4
14	いろいろな動物や虫を、手で触ることができる	29～35	11	18.2	45.5	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0
		22～28	67	13.4	40.3	19.4	19.4	4.5	0.0	3.0
		15～21	231	9.1	29.0	39.0	16.0	6.5	0.0	0.4
		8～14	206	9.2	26.2	34.5	24.8	4.9	0.5	0.0
		1～ 7	12	0.0	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0
		合計	527	9.7	29.8	34.0	20.1	5.7	0.2	0.6

参考）子どもの様子の項目について

この設問は、橘直隆氏（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）と平野吉直氏（信州大学教育学部教授）が開発した「生きる力」を測定するための 70 項目の「ＩＫＲ評定用紙」の調査項目を参考にしている。

今回の設問は、「ＩＫＲ評定用紙」の１４の能力をみる設問から、幼児の様子をはかる項目を１問づつ抽出しており、各設問と能力の対応は以下のとおりである。

質問項目	評価	
1. いやなことは、いやとはっきり言える	非依存	心理的社会能力
2. 自分からすすんで何でもやる	積極性	
3. だれにでも話しかけることができる	明朗性	
4. だれとでも仲良くできる	交友・協調	
5. だれにでも挨拶ができる	現実肯定	
6. さまざまな情報から必要なものが選べる	視野・判断	
7. 人の話をきちんと聞くことができる	適応行動	
8. 自分勝手なわがままを言わない	自己規制	徳育的能力
9. 自然の中のできごとに興味がある	自然への関心	
10. 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	まじめ行動	
11. 人のために何かをしてあげるのが好きだ	思いやり	
12. 部屋の中でなく、外であそぶのが好きである	日常行動	身体的能力
13. 少しくらい血が出ても平気である	身体的耐性	
14. いろいろな動物や虫を、手で触ることができる	野外生活・技能	

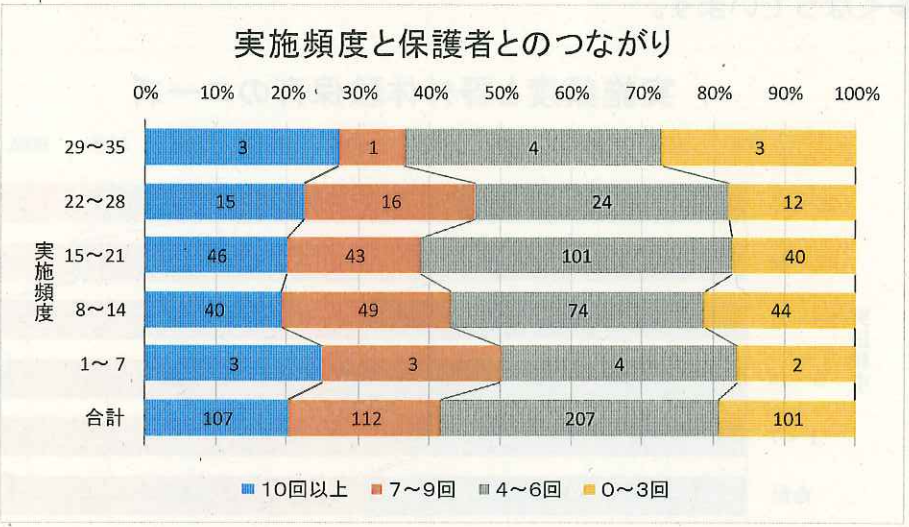
１－３－３　「保護者、地域との関わり」と「野外体験保育の頻度」との関係

○野外体験保育の頻度が高い施設ほど、地域の人々の保育への参加回数が多い。

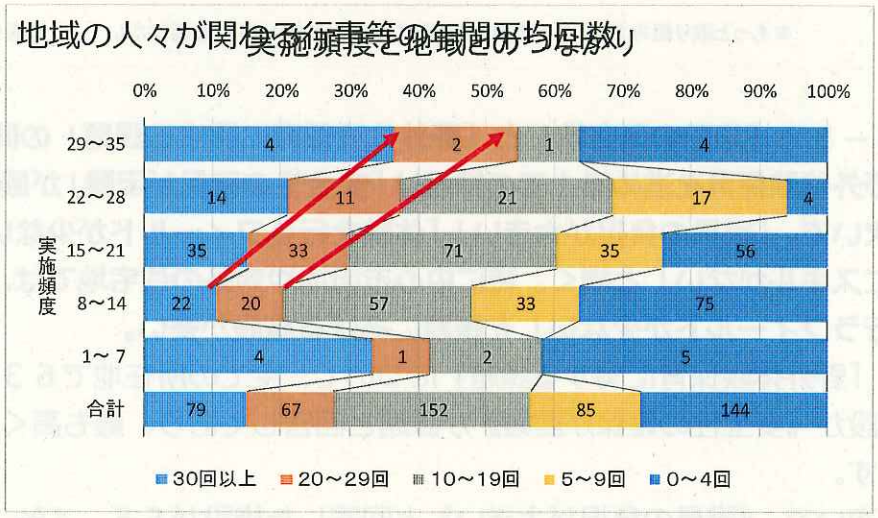
「保護者、地域との関わり」と「野外体験保育の実施頻度」との関係を見ると、保護者との関わりにおいて、保護者が関わる行事等の年間の平均実施回数と、野外体験保育の実施頻度には明確な関係が見られませんでした。

一方、地域の人々が関わる行事等の年間の平均実施回数が２０回以上と答えた施設の割合は、野外体験保育の頻度が「１点～７点」のグループに属する施設を除き、点数が高くなるほど、地域の人々が参加する行事等の回数が多い施設の割合が高くなっています。

保護者が関わる行事等の年間平均回数



地域の人々が関わる行事等の年間平均回数

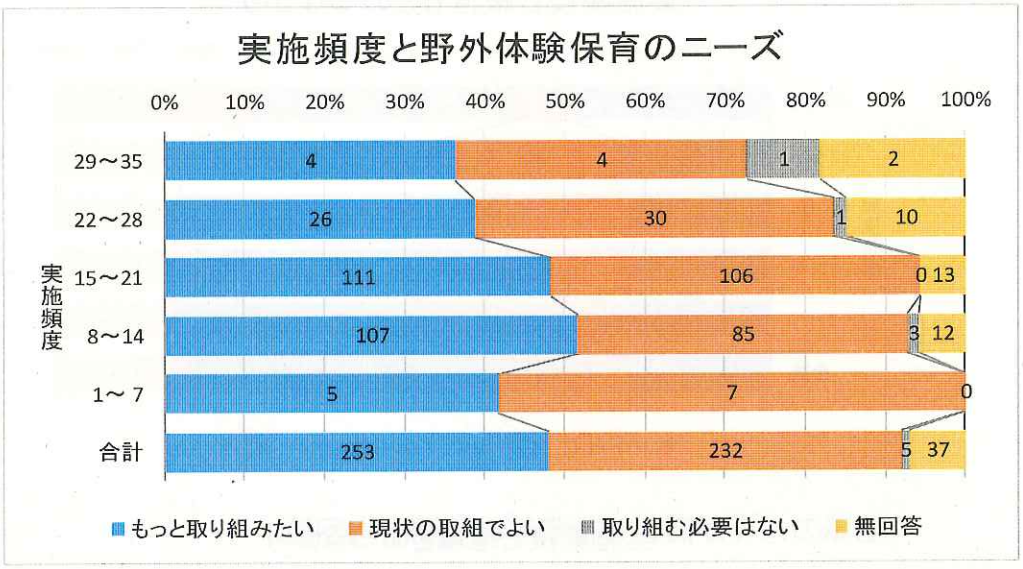


１－３－４　「野外体験保育の頻度」と「野外体験保育に対するニーズ」との関係

○　野外体験保育の実施頻度が低い保育施設ほど、もっと野外体験保育に取り組む必要があると感じている。

「野外体験保育の頻度」と「野外体験保育に対するニーズ」の関係を見ると、野外体験保育に対する今後の思いに関する質問に対し、《もっと取り組みたい》と答えた施設の割合は、野外体験保育の頻度が「８点から１４点」となる施設では、５１．７％となるのに対し、実施頻度が「２９点から３５点」「２２点から２８点」となる施設ではそれぞれ３６．４％、３８．８％と低くなっており、野外体験保育の頻度が低い施設ほど、もっと取り組みたいと答える施設の割合が高くなっています。

ただし、実施頻度が最も低い「１点～７点」の施設では《現状の取り組みでよい》と回答する施設の割合が《もっと取り組みたい》との回答より多くなっています。



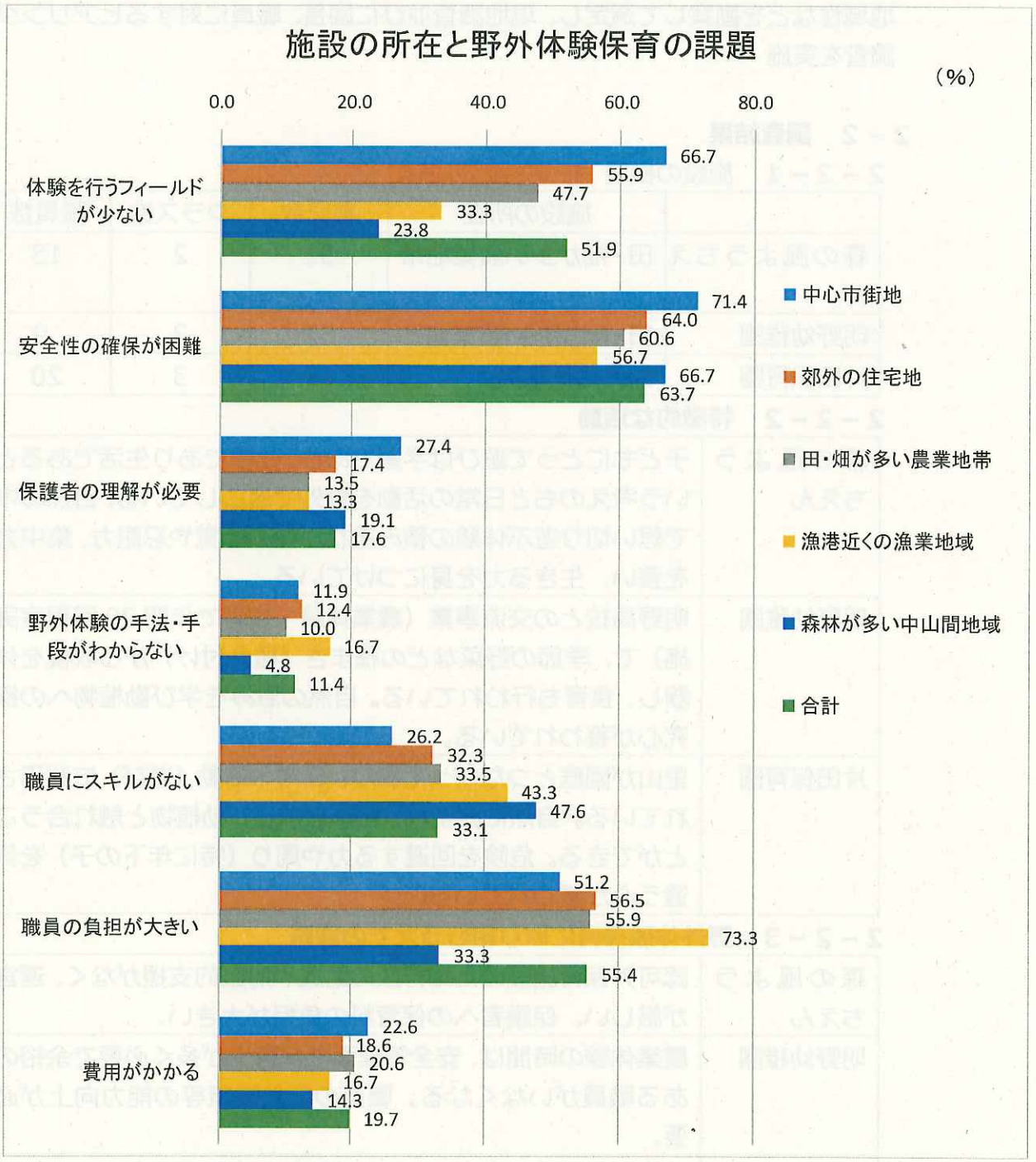
１－３－５　「施設の所在地」と「野外体験保育に関する課題」の関係

○野外体験保育を進める上での課題は「安全性の確保が困難」が最も高く、次いで、「職員の負担が大きい」「体験を行うフィールドが少ない」「職員にスキルがない」と続く。特に中心市街地や郊外の住宅地では、「体験を行うフィールドが少ない」を課題にあげる施設が多い。

「野外体験保育に関する課題」について、全ての所在地で６３．７％の施設が《安全性の確保が困難》が課題と回答しており、最も高くなっています。

次いで、《職員の負担が大きい》と回答した施設が５５．４％、《体験を行うフィールドが少ない》が５１．９％、《職員にスキルがない》が３３．１％となっています。

特に《体験を行うフィールドが少ない》と回答した施設は、中心市街地で６６．７%、郊外の住宅地で５５．９%と高く、一方農村部では、２３．８%から４７．７%と低く、施設の所在地との関係が見られます。



2　野外体験保育に積極的に取り組む施設向け現地調査（職員へのヒアリング調査）

2－1　調査方法

「保育施設向け実態調査」結果や、関係者からの聴き取りをもとに、幼保の別、地域性などを勘案して選定し、現地調査並びに園長、職員に対するヒアリング調査を実施

2－2　調査結果

2－2－1　施設の概要

	施設の所在	園児数	クラス数	職員数
森の風ようちえん	田・畑が多い農業地帯	51	2	13
明野幼稚園	田・畑が多い農業地帯	62	3	9
片田保育園	郊外の住宅地	89	3	20

2－2－2　特徴的な活動

森の風ようちえん	子どもにとって遊びは学習であり、仕事であり生活であるという考えのもと日常の活動を野外で過ごしている。自然の中で思い切り遊ぶ体験の積み重ねが体の感覚や忍耐力、集中力を養い、生きる力を身につけている。
明野幼稚園	明野高校との交流事業（農業体験・食育で年間 20 回程度実施）で、季節の野菜などの種まき（植え付け）から収穫を体験し、食育も行われている。自然の恵みを学び動植物への探究心が養われている。
片田保育園	里山が園庭とつながっており、日常の活動（遊び）に利用されている。自然に囲まれ、四季を感じ、動植物と触れ合うことができる。危険を回避する力や周り（特に年下の子）を気遣う心が養われている。

2－2－3　野外体験保育に取り組むうえでの課題

森の風ようちえん	認可外保育施設のため行政の助成や財政的支援がなく、運営が厳しい。保護者への保育料の負担が大きい。
明野幼稚園	農業体験の時間は、安全管理面で保育士が多く必要で余裕のある職員がいなくなる。職員の自然観察等の能力向上が必要。
片田保育園	入園は市役所が決めるため、学校区の違う子や泥んこになって遊ぶことが嫌な保護者もいる。山での活動範囲を拡げたいが職員の負担になる。自然体験のスキル向上が必要。

3　保護者向け意識調査

3－1　調査票回収結果

５０通（配布数５０園：回収率１００％）

3－2　調査結果

3－2－1　施設の概要

①きょうだいの数

１１７人（1世帯あたり　平均２．３４人）

※全国平均　1世帯あたり　平均１．７０人

厚生労働省　国民生活基礎踏査（平成２５年）

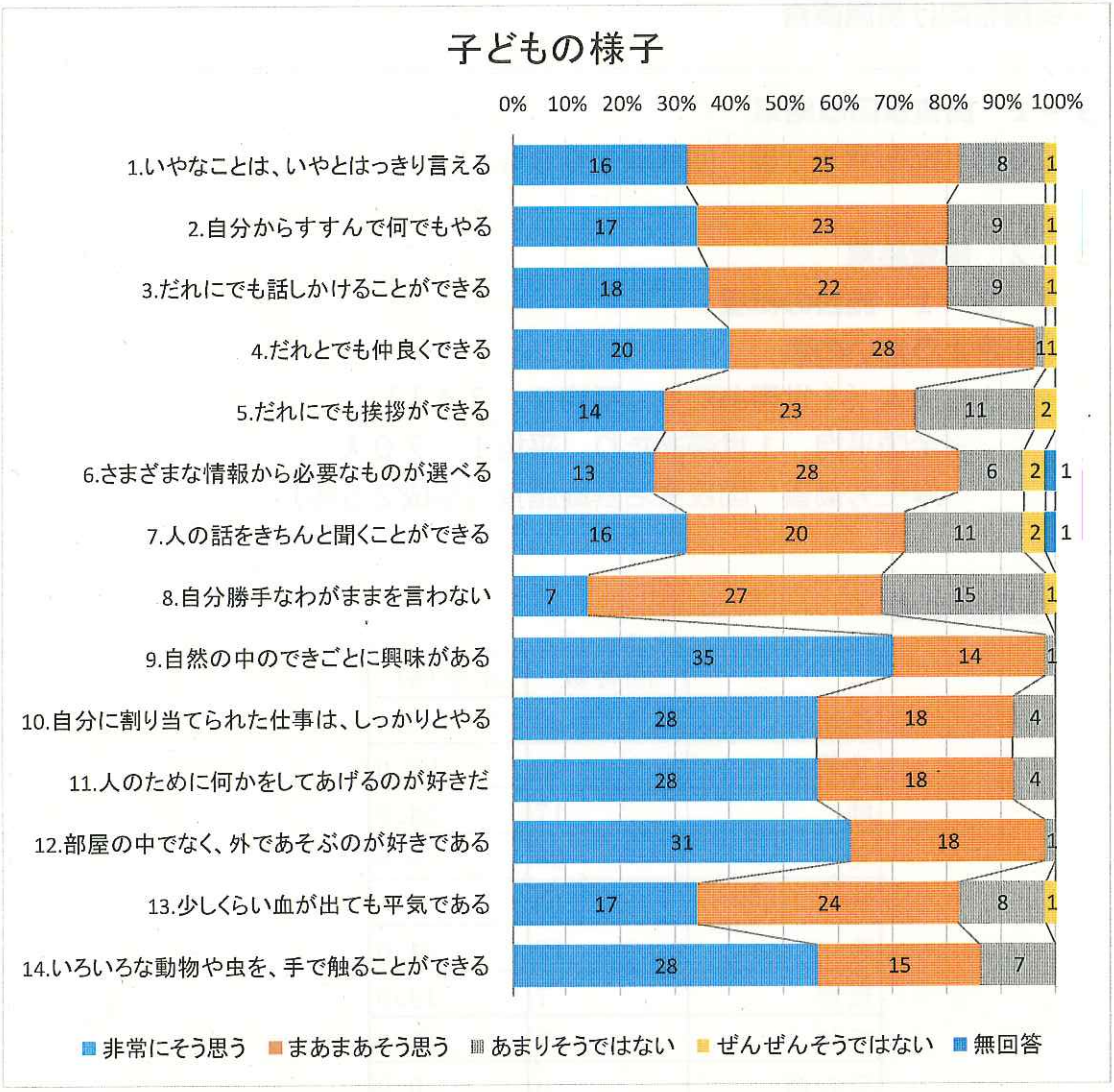
②家族構成

	回答数	比率(%)
母親	50	100.0
父親	48	96.0
姉	17	34.0
兄	20	40.0
妹	10	20.0
弟	12	24.0
祖母	7	14.0
祖父	8	16.0
その他	0	0.0
合計	50	100.0

3－2－2　子どもの様子

○野外体験保育に積極的に取り組む保育施設の子どもたちは、保護者から見て、「自然の中のできごとに興味がある」「部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである」という様子が多く見られている。

野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者に、子どもの様子を質問したところ、《非常にそう思う》との回答が多かった項目は「自然の中のできごとに興味がある」が７０％、次いで「部屋の中でなく、外で遊ぶのが好きである」が６２％、「自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」「いろいろな動物や虫を、手で触ることができる」という項目がいずれも５６％となっています。



今の保育施設に通わせての子どもの変化

「今の保育施設に通わせて感じた子どもの変化」について自由記述で聞いたところ、この回答内容に応じて分類すると、以下のように分けられます。

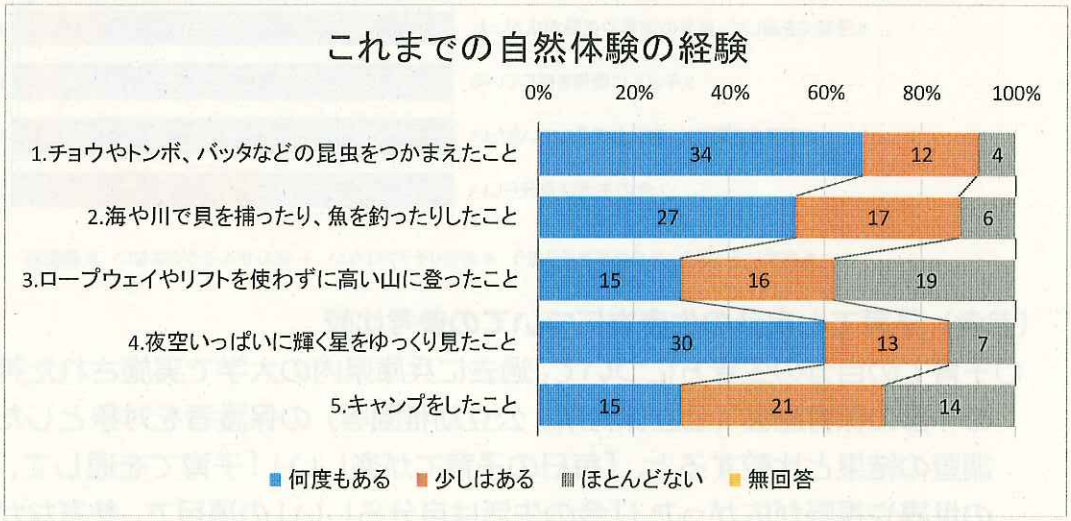
・自然への興味や関心が高くなったこと
・感受性が豊かになったこと
・周り（特に年下）への思いやりや協調性が育まれたこと
・のびのび育っていること
・体力、運動能力が向上したこと
・生きる力がついてきたこと

３－２－３　保護者の思い

（１）回答者（保護者）のこれまでの自然体験の経験

○野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者自身は、「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」「海や川で貝を捕ったり、魚を釣ったりしたこと」「夜空いっぱいに輝く星をゆっくりみたこと」が約９割。

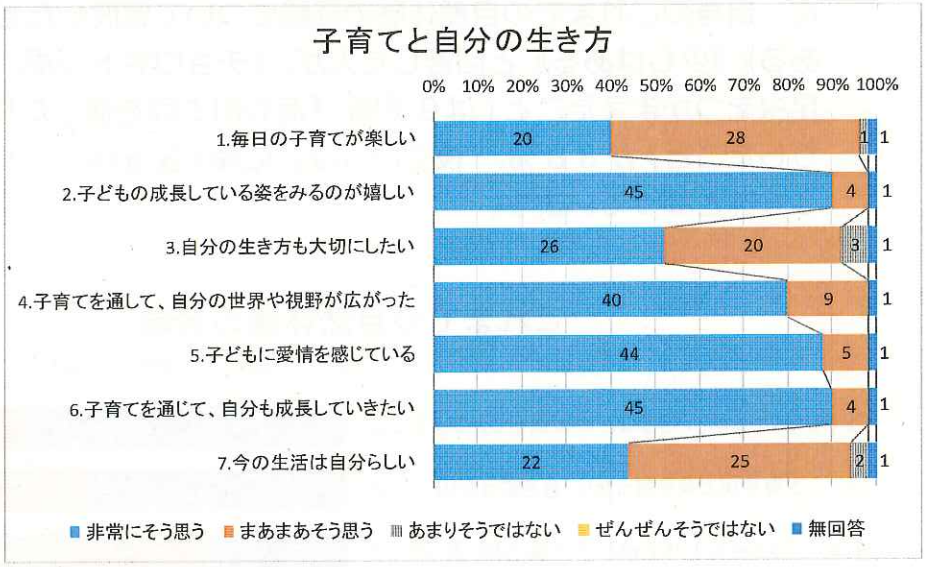
野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者に、自身のこれまでの自然体験の経験について質問したところ《何度もある》《少しはある》と回答した人が、「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」は９２％、「海や川で貝を捕ったり、魚を釣ったりしたこと」が８８％、「夜空いっぱいに輝く星をゆっくりみたこと」が８６％となっています。



（2）子育てと自分の生き方

○野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者は、今の子育てと自分の生き方に肯定的な感情を持っている。

子育てと自分の生き方の肯定的な感情について、7つの項目に対する思いを質問したところ、《非常にそう思う》及び《まあまあそう思う》と回答した人は、全ての項目で9割以上を占めており、ほとんどの人が、今の生活に対して肯定的な感情を持っていることが見られます。



（参考）子育てと自分の生き方についての参考比較

○子育ての自分の生き方について、過去に兵庫県内の大学で実施された神戸市の一部の保育施設（公立保育所、公立幼稚園等）の保護者を対象とした意識調査の結果と比較すると、「毎日の子育てが楽しい」「子育てを通して、自分の世界や視野が広がった」「今の生活は自分らしい」の項目で、参考ながら、今回の保護者向け意識調査の数値が上回っている。

《非常にそう思う》＋《まあまあそう思う》　（%）

		調査結果 (A)	参考文献* (B)	差 (A-B)
1	毎日の子育てが楽しい	96.0	89.7	6.3
2	子どもの成長している姿をみるのが嬉しい	98.0	99.2	-1.2
3	自分の生き方も大切にしたい	92.0	94.3	-2.3
4	子育てを通して、自分の世界や視野が広がった	98.0	92.3	5.7
5	子どもに愛情を感じている	98.0	99.1	-1.1
6	子育てを通じて、自分も成長していきたい	98.0	97.8	0.2
7	今の生活は自分らしい	94.0	79.3	14.7

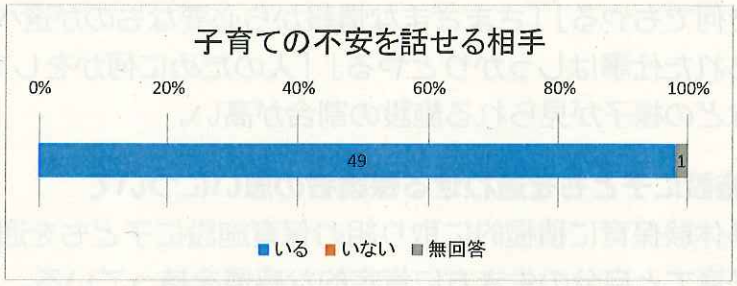
*甲南大学人間科学研究所 第2期子育て研究会
「[第2回]子育て環境と子どもに対する意識調査」報告書

（３）子育てについての不安を話せる相手

○野外体験保育に積極的に取り組む施設に子どもを通わせる保護者は、全ての人が「子育てについての不安を話せる相手がいる」と回答

子育てについての不安を話せる相手の有無について質問したところ、無回答の１名を除き、全ての回答者が《いる》と答えています。

その相手については、「子育てを通じて知り合った友人」が８８％でもっとも多く見られます。



	回答数	比率(%)
配偶者	41	82.0
自分の両親	38	76.0
配偶者の両親	19	38.0
自分又は配偶者のきょうだい	19	38.0
子育てを通じて知り合った友人	44	88.0
子育て以外で知り合った友人	18	36.0
保育施設の先生	34	68.0
医師・保健師などの専門家	12	24.0
その他	2	4.0
無回答	2	4.0

第３章　野外体験保育の調査結果について

調査結果から見えること（主なもの）

（１）野外体験保育の有効性に関するもの

①野外体験保育の頻度と、子どもたちの様子との関係について

野外体験保育の実施頻度が高い保育施設ほど、多くの園児に「自分からすすんで何でもやる」「さまざまな情報から必要なものが選べる」「自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」などの様子が見られる施設の割合が高い。

②保育施設に子どもを通わせる保護者の思いについて

野外体験保育に積極的に取り組む保育施設に子どもを通わせる保護者は、今の子育てと自分の生き方に肯定的な感情を持っている。

（「子どもの成長している姿を見るのが嬉しい」「子育てを通じて、自分も成長していきたい」などの項目に、そう思うと答えた人の割合が９割以上）

（２）野外体験保育に関するニーズや課題に関するもの

①野外体験保育のニーズについて

県内の４８％の保育施設がもっと野外体験保育に取り組む必要があると感じている。特に、野外体験保育の実施頻度が低い施設ほど、多くの施設がその必要性を感じている。※実施頻度が最も低いグループに属する施設を除く

②野外体験保育の課題について

野外体験保育を進める上での課題は「安全性の確保が困難」が最も高く、次いで「職員の負担が大きい」「体験を行うフィールドが少ない」「職員にスキルがない」と続く。特に中心市街地や郊外の住宅地では「体験を行うフィールドが少ない」を課題にあげる施設が多い。

また、野外体験保育に積極的に取り組む施設では、運営にかかる負担や保護者の理解が課題としてあげられている。

③保護者・地域との関わりと、野外体験保育の頻度の関係について

野外体験保育の実施頻度が高い施設ほど、地域の人々の保育への参加回数が多い。（地域の人々が参加する行事等の回数が多い施設の割合が高い。）

第４章　野外体験保育有効性調査検討委員会について

1　設置の目的

「野外体験保育」の有効性の検証及び普及方策に関する報告書を作成するにあたり、専門的見地からそれぞれの立場でご意見をいただく。

2　委員

所属	委員名	備考
特定非営利活動法人 大杉谷自然学校	池田　直代	
大阪大谷大学　教育学部　教授	井上　美智子	
社会福祉法人一二三会 いずみ保育園　園長	宇佐美　直樹	三重県保育協議会 副会長
岐阜聖徳学園大学短期大学部 幼児教育学科　専任講師	木戸　啓絵	
学校法人ひかり学園 白子ひかり幼稚園　理事長	服部　高明	一般社団法人 三重県私立幼稚園協会副会長

※５０音順・敬称略

3　検討状況

	実施日時	内容	備考
第 １回	平成２７年 ９月　８日	1　野外体験保育有効性調査について 2　実態調査について 3　野外体験保育の普及方策について	
第 ２回	平成２７年 １０月２３日	1　野外体験保育実態調査の概要について 2　野外体験保育の普及方策（案）について	現地調査実施
第 ３回	平成２８年 １月２９日	1　野外体験保育有効性調査の結果について 2　野外体験保育の普及方策について	

資料２

２　野外体験保育の普及方策について

調査結果をとりまとめた結果、保育施設が野外体験保育を進める上で課題となる事項が浮き彫りとなってきました。

今後、県内で野外体験保育の普及をはかっていくためは、こうした課題に適切に対応していくことが必要です。

過去２回の調査・検討委員会において各委員からいただきました関係意見について、次のとおり整理しましたので、これらも参考にしながら、ご意見を伺います。

○課題についての対応について　　※別添「概要」ｐ２５

（１）安全性の確保

・「森のようちえん」や自然体験活動団体のノウハウを活用できたらと思う。

・幼稚園協会の新人研修にこうしたメニューを入れてはどうか。多かれ少なかれ、自然体験の機会はどこの園でもある。

・交流会はよい取組であると思うが、この交流会について、結果について積極的に公開し、効果を蓄積させることが重要。

（２）職員の負担軽減

（３）体験を行うフィールドのなさ（少なさ）

・園の子ども達を自然体験に連れて行ける助成が必要ではないか。

・普及方策はハードよりもソフトではないかと感じる。

・自然体験のプログラムを作っていただくのが有意義ではないか。自然体験施設でも、小学生以上を対象としたプログラムは多いが、幼児対象のものは極端に少ない。

・「豊かな自然を体験」するよりも「自然を豊かに体験」することの実現（まちの中の少しの自然でも、それを工夫してどう体験するか）が大切。

（4）職員のスキルの向上

・特に若い保育士の質を高めることが必要。

・（再掲）「森のようちえん」や自然体験活動団体のノウハウを活用できたらと思う。

・指導者養成の場として、先進の保育の現場等で勉強できる機会を支援することがよいと思う。

・モデル園を指定し、専門家を派遣することで、密着してモデル園の保育者を指導してはどうか。少なくとも３年以上、モデル園に関わることができれば、実際に変化が期待できる。

・（再掲）幼稚園協会の新人研修にこうしたメニューを入れてはどうか。多かれ少なかれ、自然体験の機会はどこの園でもある。

・（再掲）交流会はよい取組であると思うが、この交流会について、結果について積極的に公開し、効果を蓄積させることが重要。

・研究会については、保育者が主体的に動けるしくみを作らないと、後につながっていかない。保育者が役割を持ってやることが大切。

・アドバイザー派遣について、モデル園に派遣する人材は「森の風ようちえん」だけでなく、県内外の専門家にも来てもらうとよい。

・「森の風ようちえん」では、定期的に野外体験保育に関する研究会を行っている。小学校では、テーマを設けて学校の枠を超えた教員同士の研究会などがあるが、保育施設でも、こうした場があるとよいと感じた。

・「森の風ようちえん」の園長は、「子どもには力がある」と仰っていた。実は、保育者がこれに気づいていないと、子どもの力を引き出せない。保育者向けにこうした支援が必要だと感じた。

（５）保護者・地域との関わりのつくり方

・（再掲）単なるセミナーや冊子の作成では効果がでない。モデル園を指定し、専門家を派遣することで、密着してモデル園の保育者を指導し、保育者や子どもたちが変わった姿をＰＲできれば効果的である。

・保護者と子どもを対象とした自然体験を土日に実施するのはどうか。親も巻き込んで啓発すると効果が高い。

・親向けの体験、子ども向けの体験に分けるとよいのではないか。最後に親子・保育者が一緒になった啓発を行うのが望ましい。

・冊子の啓発は、立派なものを施設に配るより、簡易なものを保護者に配る方がよい。

・「森の風ようちえん」は、地域のコミュニティづくりに波及していると感じた。

（６）その他

・子どもの頃、地域の自然に触れた人は、将来、その土地に戻ってくる。生まれた土地を大切に感じることは大事で、そのために、環境教育が必要である。

・今年度末にとりまとめる報告書には、県として野外体験保育の推進を図る理由やビジョンなどをしっかりと記入することが必要。

・実際に、自然体験保育を実施した園に対する支援は必要。また、思いを持った保育士や関係者同士の交流の機会、研究会の開催などをバックアップできれば、その機運も高まるものと考える。

平成27年10月23日
第２回調査・検討委員会
提出資料

２　野外体験保育の普及方策（案）について

１　事業の考え方

第１回調査・検討委員会でのご意見も踏まえ、有効性確認調査の結果報告を中心に、その有効性を広く周知した上で、県内において野外体験保育の実践を広く普及するため、当保育に興味を持つ保育施設を対象とした人材育成の支援や、施設・保育者の交流促進、野外体験保育の社会的認知のさらなる向上につながる啓発などについて検討を進めます。

２　方策の検討イメージ

（１）人材育成の支援

野外体験保育に取り組もうとする保育施設に対し、モデル的に、先進的な取組を実践している保育者等を派遣し、一年を通じて、それぞれの施設に応じた助言を行うことなどを検討し、野外体験保育を実践する人材の育成を支援

（２）保育者同士の交流の支援

県内で、野外体験保育を実施している、またはこれからしようとしている保育施設の保育者等が参加し、野外体験保育のノウハウを学んだり、保育施設の垣根を越えたネットワークを広げて情報交換や連絡・相談ができるような交流の場の設置などを検討し、保育者同士の交流を支援

（３）野外体験保育の啓発

一般の皆さんや、保育者、市町関係者等に、野外体験保育の実態や、その効果を広くＰＲするためのシンポジウムの開催などを検討し、野外体験保育に対する理解の促進や実践を前向き考える機運を醸成

また、野外体験保育の事例や効果などを分かりやすくまとめた啓発冊子の作成などについて検討

資料３

３　その他

（１）今後のスケジュール

平成２８年１月２９日（金）・・第３回野外体験保育調査・検討委員会
（調査結果について意見聞き取り）

２月中旬・・・・・　三重県の平成２８年度予算に関する公表
（野外体験保育の普及に関する取り組みの公表）

３月上旬・・・・・　三重県議会常任委員会での報告
（調査結果及び平成２８年度の取り組み説明）

３月下旬・・・・・・報告書公表（報告書、ホームページで公開）

（２）調査報告書について

①作成する報告書

①調査報告書（本冊）　Ａ４版　約１００頁
②調査結果の概要　　Ａ４版　８頁程度

②調査報告書（本冊）の配布先

調査検討委員会各委員、県内各市町、現地調査協力園

③その他

報告書は三重県のホームページにも掲載します。
（掲載内容：調査結果（報告書・概要）、調査・検討委員会の経過）